



大竹さんのトマト



3段目が色づき始め、もう少しで収量も例年通りになりそうです。



水不足だとすぐに症状が出る尻腐れ病。こういった実を摘果することで、他の実に栄養が集中します。



受粉をしてくれるハチには毎日エサをあげています。トマトからの花粉だけでは足りないのですね。

おかげさま農場は、「食は命」をテーマにしています。化学合成農薬や化学肥料を使わないことを基本としています。

【産地情報】

◎大玉トマトは7月20日頃まで出荷の予定です。また、天候によって生育や色づく日数が変わるため、大量注文の場合は事前にご相談下さい。

★収量より味を追求した大玉トマト

6月に入り、みなさんが待ちに待った大竹さんの大玉トマトの出荷が始まりました。ただ、今年は2段目の花が飛んでしまったため例年より収量が少なめです。「春先に寒い日があったんだよ。12~13℃にいけない日があるとトマトの花が飛んじゃって実がつかないんだよ」例年なら2段目と3段目が赤くなり始めて収量が上がってくるのですが、今年は2段目の実があまりついていないので、収量が安定しなかったのです。

さらに大竹さんはもともとトマトの水を絞ることで、収量より味を追求してきたのですが、2年前に苗の品種が変わって吸い上げる力が強くなったので、今年は今まで以上に水を絞り味を追い求めました。「3段目の花が咲く頃には本当は水をやらなくちゃダメなんだよ。でもわざと6段目の花が咲く頃まで水をあげていないところもあるんだ。水をあげれば上手くいけば倍近くの収量になるんだろうけど、量がとれても美味しくないのは嫌だからね」とあくまで味を追い求めます。

水を絞ることで実はぎゅっと締まり味は乗りますが、一方で水が運ぶカルシウムなどが実に行き渡りにくくなり、尻腐れ病というのも出やすくなります。そのためカルシウムを定期的に散布し、また他の病気も出ないように10日に1回ほど納豆菌を散布するなど、とにかく手間をかけて育てています。

収量より美味しさを優先し、その力を最大限に引き出した大竹さんの大玉トマト。今年もたくさん食べて暑い夏を乗り越えて参りましょう。



大竹さんのトウモロコシ



トウモロコシ畑の周りに電柵を張り巡らすことで、ハクビシンの侵入を防いでいます。Don't touch!



1本の木から実は1つしか収穫出来ません。だからこそ甘さや旨味がぎゅっと詰まっているんですね。



きれいな粒ぞろいの大竹さんのトウモロコシ。味は折り紙つきです。

★みんな大好き、無農薬トウモロコシ

大玉トマトに続いて、大竹さんのトウモロコシの出荷も始まりました。まさに今が旬のトウモロコシは、誰が食べても「美味しい！」と納得の味です。しかし、人間だけでなく蛾の幼虫が必ずといっていいほどつきます。また、ハクビシンという獣も寄ってきます。「去年はまだ出荷出来るトウモロコシが残っていたんだけど、ハクビシンが全部かじっちゃったんで出荷を早めに終わらせちゃったんだ」と言います。

虫も獣も大好きなトウモロコシだからこそ工夫と手間をかけて防いでいます。夏野菜のトウモロコシですが、まだ肌寒い3月半ばから種を蒔き始めます。畑にビニールマルチを敷き、さらにビニールトンネルで保温することで初期生育を促します。このことで、少しでも虫が出てくる前に実が入り始めるようにしています。また、ハクビシン対策として、昔は夜にライトで照らすなど寝ずの番をしたこともあったそうですが、今は電柵を張って触るとビリビリさせることで防いでいます。それでも完璧には防げません。「例えばトウモロコシが風で倒れて電柵が漏電すると、そこから入られてかじられちゃうんだよ」

また、暑くなってくると徐々に虫の被害が増えてきます。そうすると選別では追いつかなくなり破棄せざるを得ません。ひどい時には畑の半分のトウモロコシを捨てたこともありました。全部で1万本ぐらい作付けをしているトウモロコシ。どれだけ出せるかは大竹さんもわかりませんが、獣や虫の害を極力抑える手間をかけながら、旬の味をお届けしています。

おかげさま農場は、「食は命」をテーマにしています。化学合成農薬や化学肥料を使わないことを基本としています。

【産地情報】

◎トウモロコシは暑くなってくると徐々に虫がついてきます。選別をして出荷をしていますが、多少の虫は無農薬の証拠ということで、予めご理解下さい。